



1月10日(日)、庄川ふれあいプラザにおいて「ひがしやまみ成人記念撮影会」が開催され、新成人13名が出席されました。

東山見 広報

第49号

令和3年2月発行
東山見公民館
TEL 82-5471
FAX 82-3180

人口	男	889人
	女	990人
	合計	1,879人
世帯数		686戸

(令和3年2月1日現在)



浦水山山坂南高高島近織島橋中寺辻嶋西齋齋齋京板	元本田田東部田桑田藤田本村林乃田川藤藤藤部戸
知千悠沙涼宗舞成太悠太佳有真々聡七良風大公万	希壽依織真太鈴道郎月郎樹剛真矢子太海輝香暉亮純

東山見地区
新成人の
みなさん



東山見ふれあいまつり 手づくり作品展

恒例の「東山見ふれあいまつり」が、十月三十一日（土）・十一月一日（日）の二日間、庄川ふれあいプラザで開催されました。

「手づくり作品展」に入るとまず小学生の白い石膏彫塑の作品群が目を引きまします。その奥に個々のセンスが光る手芸コーナー、そして一年のご苦勞に頭が下がる各種団体の活動紹介へと続きます。次の区画では保育所園児たちの絵がいつし



ようけんめいに話しかけてきます。その隣は流麗闊達な書、白紙に向かう真剣な気迫が伝わります。続いて絵画・写真が並び、構図や色彩、質感表現等、どの作品にも作者のこだわりや美意識の訴えかけがあり、近寄って何かを確かめる人、指さして話をする人。確かに届いているようです。この作品展の一番の魅力はさまざまなジャンル・世代からバラエティに富んだ作品が見られることです。多くの

人を二度見させるのは、これが本当に紙かと思えばかりのペーパークラフト、ほっとする土の質感の陶芸、見事なまでに木目の天然美を生かした漆芸、四季の移ろいを鈴の仕掛けで知らせる木工細工等々。更にそれらの中



森林振興会の皆さんの竹細工実演

食改の皆さんの手づくりプリン



心には地元作家の方々の彫・塑像が配置され、雰囲気をやや高に高めています。思いを込めた作品と心が通うとき、人は得体の知れない幸福感をもつのではないのでしょうか。

今年は新型コロナウイルス感染症防止のため、規模を縮小しての開催でしたが、なんとか無事終えることができました。来年は通常に戻れるようお願いして止みません。ご来場頂いた皆さん、丹精込めた作品を出展頂いた方々、開催運営に携わって頂いた皆さんに心から感謝申し上げます。



サムチップの皆さんのバルーンアート

「金屋石」 採掘跡探訪



十一月七日(土)、見慣れているが、見るだけであった対岸の金屋石採掘跡を訪れる企画が東山見公民館主催でありました。

「金屋石を語る会」は金屋石の魅力の発信や採掘現場への山道整備、そしてしめ縄掛けを行っています。(活動内容は前四十八号既報)



時期に、庄川を渡り採掘現場を見てもらおうと、庄川峡観光協同組合との協力により実現したものです。

厄払い鯉の放流場所から、アユーズの八人乗りゴムボートで小学二年生を含む参加者十九人が三往復して渡り、高さ七十メートルの石切り場までの急傾斜地を、階段やチェーンロープを使い登りきりました。

石切り場は五か所あり、そのうち対岸から見えるのが二か所、一か所は半壊状態、残り二か所は埋まっています。これらの石切り場は電気が通せなかったという理由で、壁面の跡は全部手掘りのノ

ミ跡です。全国多くの石切り場があるが、手掘りで始まり手掘りで終わった、このように手掘りの原形をとどめているのはほとんどないので、と金屋石を語る会の会長宮窪大作さん。

新しいしめ縄の掛け替えを見届けて、さらには石切り場の最奥まで行き、手掘りのノミ跡をタッチし、郷土の先人の苦勞を偲びました。

石切り場の石工達が休憩時には毎日見ていた眼下の庄川と金屋地区、あなたに見える医王山は、地元の我々にとってもめったに見られない風景です。そして、舟戸ダム湖でボートを漕ぎ、湖面から見渡す庄川もまた絵になる素晴らしい景色です。

今後も多くの方々に参加をしていただき、いずれ観光にも結び付けて行きたいとの思いがあります。東山見地区の皆さん、体力に自信のある方は是非一度地元の歴史を体験してみてください。いかがでしょうか、大変お勧めです。



正月飾りを 手作りで!



十二月二十日(日)、正月飾り教室が開催されました。藁を使って縄を絞うことをメインにしめ縄・リースを作ることにしました。

新型コロナウイルス感染防止のため、検温・消毒・マスクと厳重な予防策の中、行われました。

感染拡大により参加者があるのか危惧しました。男性の参加は減りましたが女性が多く、例年並みの参加者数になりました。

まず縄の絞い方を学習。縄の絞い方には、右縄(右に捻る)と左縄(左に捻る)と神棚に飾るしめ縄などがある。



初めて絞う方がほとんど、説明を受けながらの実演を見て、さて実践。手が滑り捻れない、手に水をつけ擦ろうとするが、藁がねじれてくれない、手にはかり力が入り肩も痛くなる。それでも時間は掛ったが、なんとか縄に似てきた。縄ができると、ここからしめ縄にする人、輪にしてリースにする人、それぞれの思いを込めて作りました。早々の感染終息と明るい新年が来るように、手づくりしめ縄・リースに願いを託したいものです。



コロナ禍での 楽しいクリスマス会



十二月二十二日(火)、東山見保育所でクリスマスマス会がコロナ禍の中、三密に注意して開催されました。

今年はコロナ禍を意識して保育所行事に地域の人はお招きしないこととしてきました。園児が喜ぶ楽しいクリスマス会にしたいという所長の熱い思いもあり、特別に自治振興会長がサンタさんとして出演することになりました。



園児全員でクリスマスソングを歌ったり踊ったりして楽しんだ後、サンタさんの登場。会場はさらに盛り上がりました。サンタさんの不思議なマジックを見た後、プレゼントを受け取りました。会場は笑顔でいっぱい、幸せに充ち溢れました。

コロナ禍でのクリスマス会、園児を励ます最高のプレゼントになりました。

編集後記

新年を迎え数年ぶりの豪雪だ。他方、世の中はコロナでこれまでの生活が一変し、会合・イベント中止など思いがけない事態に発展した。恒例の観光祭水まつり、ゆずまつり等、大勢が集う機会が消えた。各町内会でも花見、納涼祭、地蔵祭、新年会の取り止め、常会の開催すらも無いと聞く。

地域のコミュニケーションが必要な時代に逆行する流れだが、コロナ終息の兆しは見えない。4月に産まれた孫がいるが、初めて様子が分かるようになって目にするのはマスク姿の人たち、というのでは悲しすぎる。

振り返れば私たちは、阪神淡路大震災、東日本大震災等、幾多の災難に見舞われ、その都度立ち上がってきた。一人ひとりの力の結集が大きな成果を生んだに違いない。

マスク・手洗い・三密回避が当たり前の生活はやはり窮屈だが、コロナ禍という未曾有の事態にあって、今が踏ん張りどころであり、皆で乗り切ることで次の時代が開けるだろう。

マスクなしで気軽に立ち話のできる日を心待ちにしている。(お)

